

# 令和4年度（2022年度）公社等経営評価書

八戸臨海鉄道株式会社

株式会社等用

## 1 法人の概要

基準年月日  
(基本情報に係る基準日) 令和4年7月1日

法人名	八戸臨海鉄道株式会社	所管部課名	企画政策部 交通政策課
代表者職氏名	(職名) 代表取締役社長 (氏名) 秋野 貴司	設立年月日	昭和45年7月30日
所在地	〒 039-1103 青森県八戸市大字長苗代字上亀子谷地9番地	電話番号	0178-51-6708
HPアドレス	<a href="http://www.hachirin.com">http://www.hachirin.com</a>	FAX番号	0178-51-6707
e-mailアドレス	<a href="mailto:info@hachirin.com">info@hachirin.com</a>		

### 資本金・基本金等

資本金・基本金等	570,000 千円
(うち県の出資等額)	165,000 千円
(県の出資等比率)	28.9 %

### 主な出資者等の構成（出資等比率順位順）

氏名・名称	金額（千円）	出資等比率（%）
1 日本貨物鉄道株式会社	220,000	38.6
2 青森県	165,000	28.9
3 三菱製紙株式会社	115,000	20.2
4 八戸市	55,000	9.6
5 八戸製錬株式会社	10,000	1.8
6 八戸鉄工団地協同組合	5,000	0.9
7		
8		
9		
10		

### 設立の目的・事業の目的

○設立の目的：八戸臨海地区への主要企業進出に伴い、この地区に集積される貨物輸送体制の早急な整備・確保の要請を受け、臨海鉄道方式による鉄道輸送を行うため設立された。

○事業の目的：1. 鉄道事業、2. 日本貨物鉄道株式会社及び青い森鉄道株式会社に係る業務の受託、3. 駐車場業、清掃管理業、4. 不動産の賃貸及び管理業、5. 貨物の保管施設の経営、6. 損害保険代理業、7. 一般建設業（土木工事業、電気工事業、電気通信工事業、鋼構造物工事業、塗装工事業、舗装工事業、水道施設工事業 他）、8. 貨物利用運送事業、9. 廃棄物収集・運搬事業、  
10. 前各号に付帯または関連する一切の業務

### 経営目標

- 安全を最優先とする経営
- 収入の確保
- 経営基盤の強化

### 主要事業の概要

主要事業	決算額（千円、%）						公益・収益等の別	補助金の有無	受託収入の有無	再委託の有無
	令和元年度(2019)	割合	令和2年度(2020)	割合	令和3年度(2021)	割合				
事業1 鉄道運輸業務 (内容) 臨海工業地帯の鉄道貨物輸送業務	178,480	45.00 %	138,191	38.50 %	141,734	39.20 %		無	無	無
事業2 その他業務 (内容) JR貨物・青い森鉄道株式会社・八戸市・その他からの業務受託	218,143	55.00 %	220,746	61.50 %	219,833	60.80 %		無	有	有
事業3 (内容)		%		%		%				
上記以外		%	0	0.00 %		%				
全事業	396,623	100.00 %	358,937	100.00 %	361,567	100.00 %				

### 組織の状況

区分	令和2年度(2020)		令和3年度(2021)		令和4年度(2022)		前年度増減	増減理由
	県派遣	県OB	県派遣	県OB	県派遣	県OB		
役員	常勤	3	1	3	1	3	1	
	非常勤	9	1	1	8	1	1	1 欠員の補充選任による
	計	12	2	11	2	12	2	
職員	常勤	44		41		41		
	非常勤							
	臨時職員	5		5		4	▲1	退職による
計	49		46		45	▲1		

役員平均年齢	63.3 歳
役員平均年収	6,132 千円

職員平均年齢	47.2 歳	職員の年代別構成	20代	30代	40代	50代	60代～	勤続年数（平均）
職員平均年収	4,309 千円		5人	8人	9人	4人	15人	11.0年

※常勤役員のみ

※常勤職員のみ（ただし、職員平均年収及び勤続年数はプロパー職員分）

2 財務の状況

(単位：千円)

項 目		令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	前年度増減	主な増減理由〔法人記入〕
収支等の状況	売上総利益	115,973	99,995	125,186	25,191	貨物運輸収入の増加、人件費の減少
	営業利益	37,822	25,272	41,152	15,880	貨物運輸収入の増加、人件費の減少
	経常利益	41,490	26,006	42,556	16,550	貨物運輸収入の増加、人件費の減少、雑収入の増加
	当期純利益	37,325	8,671	10,713	2,042	貨物運輸収入の増加、人件費の減少、雑収入の増加
	利益剰余金	584,996	593,668	604,381	10,713	
	借入金残高					
資産	資産	1,574,290	1,492,492	1,569,979	77,487	
	負債	419,294	328,824	395,598	66,774	未払法人税・消費税の増加、車両修繕引当金の増加
	純資産	1,154,996	1,163,668	1,174,381	10,713	
県費等の受入状況	補助金					
	事業費					
	運営費（人件費含む）					
	受託事業収入					
	負担金					
	交付金					
	貸付金					
	無利子借入金による利息軽減額 （長期プライムレートによる試算額）					
	減免額（土地・施設等使用料等）					
	債務保証残高					
損失補償残高						

(単位：%)

財務分析指標		令和元年度 (2019)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	前年度増減	主な増減理由〔法人記入〕
財務構造	自己資本比率	73.37	77.97	74.80	▲ 3.17	
	総資産経常利益率	2.64	1.74	2.71	0.97	貨物運輸収入の増加等による経常利益の増加
	県財政関与率					
収益性	総資産回転率	27.60	25.74	25.65	▲ 0.09	
	売上高経常利益率	9.55	6.77	10.57	3.80	貨物運輸収入の増加等による経常利益の増加
効率性	販売管理費比率	17.99	19.45	20.87	1.42	
	人件費比率	44.57	51.93	47.24	▲ 4.69	
財務健全性	流動比率	446.23	505.65	459.18	▲ 46.47	
	借入金比率					

3 経営評価結果等への対応状況

これまでの経営評価結果等 （改善事項等）	対応状況 〔法人記入〕	左に係る県所管部局の意見・評価 〔県所管部局記入〕
収益の拡大、業務の効率化などの取組状況について（※主要顧客である三菱製紙八戸工場の操業状況を含む。）	<p>○令和3年度、弊社は安全の理念である「安全は鉄道事業の存立基盤である」のもと、「人命を守ること」などの意味を理解して、定着、浸透させるといった安全を最優先とする取組みを行ってまいりました。</p> <p>収入の確保では、インセンティブを活用した営業を積極的に展開し、紙輸送の増送を図りました。また、初の試みとして機関車運転体験会を開催し、地域貢献・認知度向上にも努めました。</p> <p>人材育成では、将来の多能化に向けての機関士養成、まくらぎ交換などの技術教育を実施いたしました。</p> <p>また、社内コミュニケーションの活性化及び業務の効率化を図る目的で本社を現場事務所内へ移転するなど様々な施策を推進いたしました。</p> <p>○主要顧客の三菱製紙八戸工場様に関しましては、外出やイベントの制限が緩和されたことなどから紙需要の回復が見られましたが、燃料価格急騰の影響を大きく受けることになりました。このような状況下、需要動向に合わせた生産体制の最適化と在庫水準適正化を図るとともに、製品価格の改定を実施しております。</p> <p>弊社といたしましては、お客様のニーズに合わせた輸送力の確保並びに荷崩れ防止対策などの輸送品質の向上を図り、お客様の信頼を得て、既存輸送の維持・拡大に向けて、最善の努力をしてまいります。</p>	<p>インセンティブを活用した積極的な営業、初の試みとして機関車運転体験会を開催するほか、人材育成や社内コミュニケーションの活性化及び業務の効率化を図る等、様々な施策を推進している。</p> <p>また、主要顧客の三菱製紙八戸工場に關しても、紙需要の回復が見られた一方で燃料価格急騰の影響を大きく受けることとなった中、顧客のニーズに合わせた輸送力の確保並びに荷崩れ防止対策などの輸送品質の向上を図る等の対策に取り組んでいる。</p>

#### 4 経営評価指標

##### (1) 法人自己評価

評価項目	対象指標 評点数	法人評価		(参考)	自己評価〔法人記入〕 (経営概況、経営上の課題・対策、得点率の増減理由等)
		評点数	得点率	前年度得点率	
目的適合性	16	14	87.50	87.50	社会経済情勢等の変化に対応するため、お客様のニーズに合わせた輸送力を確保するとともに、着荷物誘致にも積極的に取り組んでまいります。また、事業活動内容をホームページ等で積極的に情報発信してまいります。
計画性	32	30	93.75	100.00	中期経営計画に基づく未利用地の貸付について、解約により収入目標を若干ながら達成できませんでしたが、当該年度中に初の試みとして「機関車運転体験会」を実施するなど、迅速に計画を見直し収入確保に努めました。
組織運営の健全性	40	38	95.00	97.50	引き続き、全社員のコンプライアンスの確立と社会的信用の向上を図るため、人材育成に努めてまいります。
経営の効率性	26	23	88.46	84.62	人件費比率を減少することができ、得点率が増加いたしました。今後も収入に見合った厳格な経費執行に取り組むとともに、必要の都度、柔軟な見直しを実施いたします。また、物品販売等の新たな収入確保に取り組んでまいります。
財務状況の健全性	20	19	95.00	85.00	これまで以上に、安定的な収支の黒字が確保されるよう努めるとともに、不測の事態等に備え、必要な財源を確保してまいります。
合計	134	124	92.54	92.48	

##### (2) 県所管部局評価

評価項目	項目別評価		コメント〔県所管部局記入〕
目的適合性	◎	対応等は良好	輸送力の確保や地域の産業振興に大きな役割を果たしており、概ね良好である。
計画性	○	概ね対応等は良好	中期経営計画にある未利用地の貸付及び受託業務拡大による付帯収入について、目標には若干到達できなかったものの、「機関車運転体験会」を初めて実施するなど、迅速に計画の見直しによる収入確保がなされている。
組織運営の健全性	○	概ね対応等は良好	コンプライアンスの確立に向けた社内研修や、将来の多能化に向けた機関士養成等の人材育成政策を実施しており、内部管理体制は問題ないものとする。今後もさらなる人材育成に取り組んでもらいたい。
経営の効率性	◎	対応等は良好	インセンティブを活用した積極的な営業や機関車運転体験会の開催、その他需要動向に合わせた生産体制の最適化と在庫水準適正化の推進や製品価格の改定等により、前年度より売上・利益ともに増加している。引き続き、収入の確保、業務の効率化に努めてほしい。
財務状況の健全性	◎	対応等は良好	前年度に比べ、売上・利益とも増加しており、借入金も無く、財務状況は健全であるといえる。今後も、収益拡大及び経費節減を徹底し、安定的な黒字確保に努めてほしい。

#### 5 総合評価

総合評価		コメント〔県所管部局記入〕 (改善事項等)
A	概ね良好	財務の状況については、前年度に比べ、売上・利益とも増加しており、借入金も無く、安定して黒字が確保されていることから経営基盤は安定しているものと評価できる。 今後も、新型コロナウイルス感染症や燃料価格急騰等の情勢に留意して、引き続き取り組んでいくことを期待する。